北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会　http://miyazawa-lane.com/

# 事務局たより

第 57 号　2021 年 12 月 12 日　chyda-kr@f8.dion.ne.jp
◇事務局　101-0061 千代田区神田三崎町 2-19-8　杉山ビル 2F
千代田区労協気付　T:03-3264-2905 F:03-6272-5263

## 宮澤・レーン・スパイ冤罪事件から 80 年

# “憲法改悪⇒戦争”への道を許すな！

## 宮澤弘幸　追悼・顕彰墓参にあたって

「太平洋戦争開戦・宮澤弘幸ら一斉検挙」から 80 年の今、日本は再び戦争前夜の様相を呈しています。

安倍・菅政権下の９年間に、特定秘密保護法、戦争法、共謀罪法、そして土地利用規制法等々の国民弾圧体制を強行成立させました。

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を引き起こした戦前の治安維持法・軍機保護法改悪の動きと重なって現れています。

沖縄はすでに「戦場」化されています。琉球弧は「対中包囲網」の最前線として、軍事基地化が強行され、防衛予算＝軍事費は過去最高額になろうとしています。

辺野古米軍基地建設強行は、日本の国土に日本の金で最新鋭基地を作ってアメリカに差し出すという文字通り恥ずべき売国行為です。

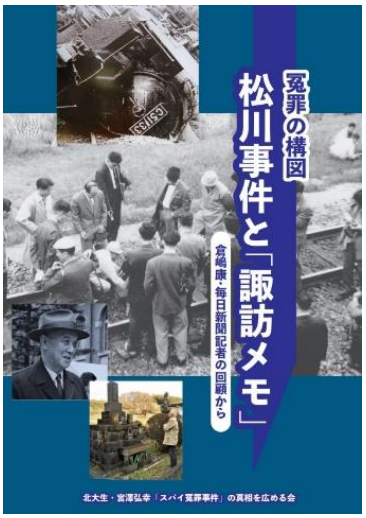
この背景にある、屈辱的な日米安保条約―地位協定について、政府は、改定の意思表示すらしようとしていないのです。

＊

12 月８日、風雨の一日でしたが、午後１時、北海道大学ＯＢ、毎日新聞ＯＢら 17 人が新宿・常圓寺に集い、宮澤弘幸の墓参を行いました。

### 来年2月22日、墓参と集い

北大ＯＢのみなさんは、来年 2 月 22 日の宮澤弘幸命日には、墓参と集いを開催する準備を進めています。




# 「松川事件と『諏訪メモ』」感想特集

**みなさんから寄せられた感想・意見を紹介します。**

**「冤罪」事件は、やってもいないことをやったとして捏造され、断罪されます。国家権力が窮地に陥るとそれが狂暴になることは、宮澤・レーン・スパイ冤罪事件も松川事件も同じです。**

**一方、「森友事件」は、安倍元首相の周辺官僚が「記録に残っている事実」を「なかったことにしろ」と強要し、それを担わされた赤木俊夫さんは死をもって抗議しました。安倍元首相らは責任をとろうとしていません。罪を着せられたという意味では、この事件も「冤罪」というべきだと思います。国家権力犯罪に時効はありません。追及をやめてはなりません。**

こう言っては内容に失礼に当たるかも分かりませんが、まるで小説を読んでいるような、次は何が展開されるのだろうかとの筋書きの興味と真実が探られて行くプロセスを興奮感を持ちながら読みました。映画にも、出来るのではないでしょうか！　いや、こんなことで終わる読後感ではいけないですね。

記者の事実を探って行く根性・努力と、誠実さを仲介とする立場を超えた人間関係が読み取れます。また、管理、監視が進んでしまった現在では困難な、組織のなかにいてもそれぞれの信念を持つ人々が描き出されていました。

戦争という生存が掛かる人生を潜り抜けてきた人々は、国家に騙された反省から一定の自己倫理観持っていたのでしょうか。私が就職した頃の役員の方々はどこかに毅然とした姿勢を持っていたなと、近頃の企業の不祥事を知る度に思います。素晴らしい冊子です。

同様の興味を持った柴田哲孝の「下山事件」という小説も、その時代の世相（渾然・物騒・ＧＨＱ ・国鉄労使）、人物・利害・利権（米軍・日本軍特務機関関係者・政治家）をドキュメント風に描いており、どんどん読み進め、闇が分かる本です。（戦後史の傑作小説本と思います）。

私が松川事件に最初に接したのは、高校 2 または 3 年で友人たちと 1961 年見た映画「松川事件」でした。映画の所々は、まだ記憶に残っています。

松川大行進に参加していた友人も居りましたし、この映画を見て弁護士になった友人もいます。不当な事件は若かった我等に大きな影響を与えています。

この本も多くの人に読まれることを期待します。

泉　定明（北海道大学ＯＢ）

＊

『冤罪の構図　松川事件と「諏訪メモ」』を贈呈いただきありがとうございました。

宮本検事正が倉嶋記者に「諏訪メモ」の存在を認めた場面（27-28 頁）が圧巻でした。この場面に至る経緯、そしてこの後に裁判所に証拠として採用され無罪判決にいたる経緯は、まさに「一つ欠けてもあわやの良心の連鎖」によるものであったことが分かりました。

私は 1961 年に北大に入学し、すぐに「松川事件の被告を守る会」の運動に出会いました。現地調査にも行き、赤間勝美氏、太田省次氏から取り調べの生々しい証言を聞いたことを記憶しています。また、勝利判決を皆で喜び合った集会のことも思い出しました。この頃は松川事件について学習をしていたのですが、「検察官の良心」、「裁判官の良心」の発揮とその重要性については初めて本稿から学びました。

なお、本稿にでてくる佐藤一氏とは、竹前栄治氏が代表をつとめていた「占領史研究会」で知り合いとなり、その頃は若造であった私に親切に助言をしていただき、彼の沢山の論稿をいただきました。日本共産党には批判的な観点から占領史研究の再検討を提起する内容のものでした。

60 年ぶりに松川事件の学び直しの機会を与えていただいたことにお礼申し上げます。

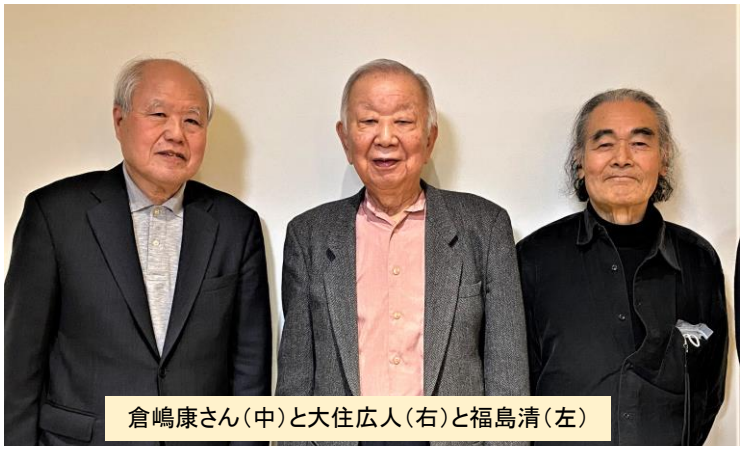
明神　勲（北海道教育大学名誉教授）

＊

とても 11 月の読書予定の本を読む気になれず、ベットでゴロゴロしていたのだが、送られて来たのが『冤罪の構図 - 松川事件と「諏訪メモ」倉嶋・毎日新聞記者の回顧から』

facebook でご覧の方もおられるだろう。元毎日新聞ＯＢ記者の倉嶋康さんの facebook に書き続けいる連載企画「記者クラブ」の中で、最高裁で審理中の高裁で死刑４人などの仙台高裁判決が出ていた、1949 年の東北本線での列車転覆で３人の死者を出した松川事件について 124 回書いている。これをまとめたモノ。実に面白い。この「諏訪メモ」が決め打ちとなり、事件は 1963 年最高裁で全員無罪判決がでる。

この無罪判決のきっかけを作ったのが、当時福島支局の駆け出し記者だった倉嶋康さん、現在 88 才になる。このとんでもない”特ダネ”について、倉嶋さんはこれまで語ることはなかった。親父さんは長野市長を二期やられていた倉嶋至さん。「社会に出たら自慢話はするものではない」という教訓を守り、50 年以上語ることはなかった。当方も知らなかった。　（３面へ）


倉嶋康さん（中）と大住広人（右）と福島清（左）

## 倉嶋康さんを囲んで話を聞く

**松川事件と「諏訪メモ」に注目した青島顕・毎日新聞記者も同席して、倉嶋さんに当時のことを取材しました。（12 月 11 日、八王子にて）**

（２面から）　この転覆事件の実行犯として逮捕されたのは、国労、東芝工場の組合員の 20 人。主犯格で死刑判決を受けた東芝労組の佐藤一さん。なんと共同謀議とされる同じ時間帯に、東芝工場で労使交渉を行っていたという、会社側の交渉メモが福島地検に押収されているというのだ。

この話を親しくしていた釈放された元被告の一人から、支局近くの銭湯で聞き込んだ倉嶋さんが、弁護士、地検検事にあたりようやくその存在を確認する。この間の取材先の人間関係を作る倉嶋さんの自然体のテクニックがスゴイ。手に汗握る面白さ。最終的に「諏訪メモ」の存在を確認して原稿にする。

そしてこの記事を本紙（東京発行紙面）には送らず、福島県版限定で出す。東京に送ればいちゃもんが付いて、ボツになる可能性があると思ったからだ。分るな―。

この特ダネの出た翌日の支局の雰囲気、ほめてくれる人はだれもいず下を向いて原稿を書いている仲間ばかり、分かるな―。ほんと新聞記者って仲間のことをその場でほめないんだよな。

この小冊子をまとめたのは元毎日新聞労働組合ＯＢらで作っている「北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会」。戦前特高にスパイとして、アメリカ人の北大の英語教師夫妻と共に逮捕、拷問を受けて、戦後釈放されるが、その真相を糺している会の発行。

この倉嶋さんの本、硬直的な権力批判で「諏訪メモ」の隠蔽を批判しているのではなく、一新聞記者の思い出を倉嶋さんは淡々と書いている。それが何とも言えないいい味を出している。そしてその背後にある黒い影を浮き出させている。

若きジャーナリストの取材方法、いかにニュースソースに食い込むかの指南書にもなっていると思う。ジャーナリスト志望者にはお勧めの本。

佐々木宏人（毎日新聞ＯＢ）

＊

1954 年秋、京都の民青で、「松川事件を守る会」だと思うが、京都の高校に組織することになり、当時の民青の責任者だったのです。その時、赤間さんと雑談する中で、「サワダさん、活動家でしょう。万が一のためにきちっと活動記録はつけといた方がいいですよ。ホントは日記がいいのですが、最低メモでもいいですから、時間、場所、会った人物位は」とアドバイスされました。だから、私の日記は1955年から始まっています。後年、新聞販売店をめぐるサギ事件で大津署に３日間呼ばれ時のケイサツのストーリーは、サワダが主犯だったのです。それをつぶせたのは「日々是好日」（日記）です。赤間さんのアドバイスが生きたのです。

サワダ　オサム（滋賀県草津市）

＊

この度は倉島様の新聞記者としてレガシーとして刊行された貴重な「松川事件と諏訪メモ」をお送りいただきありがとうございました。

倉島様とは長野市が中心市街地活性化に取り組むため、経産省中小機構のタウンマネージャーとして長野商工会議所に５年の任期で派遣され、冬期五輪後に撤退したダイエー、そごう百貨店、善光寺門前商店街の閉店街の後活用と活性化に取り組んでいるときに、倉島様から「みどりの自転車」の活動に着手されダイエー前に自転車ステーションを設けたいとお話を受け、是非協力させてくださいとお会いでき交際させていただき、またケジメの会にもお誘いいただき今日に至っておりますが、今日はじめて倉島様の新聞記者人生を知りすごい人と出会い気楽に共にしていただくことが出来たこと感謝申し上げております。

倉島様よりお手紙を頂く前に福島様より御本をお贈りいただき、手に取ると夢中で本を読ませていただきました。まさか倉島様が「冤罪事件・松川事件」の真相を突き止め、最高裁で有罪確定が必至とされた４人の無実の人を助け、また当時の赤狩りと称しての警察、検察の行為が尋常ではない時代に、良くご無事で新聞記者として正義を問う仕事に活躍されたこと感銘を受けました。

東芝と松川事件の件で三重に居る当時、東芝の三重工場に勤めて労働組合活動もしていた年配の高校の先輩に、松川事件で国鉄、東芝の工場を解雇　（４面へ）

（３面から）　された従業員が、事件の犯人として有罪となり、その人たちを助けた新聞記者のことを知っているかと聞きましたら、当時の新聞記者の方の努力で松川工場の元従業員が列車転覆事件の犯人にされたが、当時のアリバイを立証していただき助けていただいたことは聞いた。三重工場は基幹工場でもあり労組も各工場の労組を束ねていた。共産党員の労組活動を会社は嫌い勤務態度が悪いと尋問を受け解雇される人も多くおり、組合は解雇を理由に労組活動を活発化させた。先輩たちは、健全な労組活動を訴え労使交渉でも赤狩りと称する解雇を止めるように、共産系の組合員には健全な労使環境づくりに取り組み、参画せよと言ってきたと話しておりました。正月には私が三重に帰郷するときには倉島様が刊行された御本をもって先輩を訪ねることにしました。倉島様のお陰で１０年ぶりに会える機会ができ互いに楽しみにしております。

服部年明（上田市）

＊

当時私は千代田区麹町で守る会活動をしていました。今回倉嶋記者のご活躍に感動しました。権力の「冤罪の構図」を明らかにしてくださり、ありがとうございました。　宮地さか枝（川口市）

＊

きょう、ゆっくり時間が出来て、まずは倉嶋さんの回顧部分（68ページまで）を一気に読みました。素晴らしい！真実にのみ忠実に生きてきた記者の在り方に、こういう方がおられたのかと感銘を受けました。

藤森　研（朝日新聞ＯＢ）

＊

新聞記者の真髄を知りました。民主主義と正義を軽んずる風潮があるなか、これを糺そうとする力が健在であること、とても頼もしく思います。

和　孝雄（北大名誉教授）

＊

『冤罪の構図　松川事件と「諏訪メモ」』を読み終えました。本文も然ることながら、第２部で展開された大住さんの「冤罪・松川事件」と「実在・松川事件」は、支配権力側の隠蔽、捏造、虚言が大日本帝国憲法から“現今”へ延々と引き継がれ、彼等の都合によって冤罪を生み出し続けていること、そしてそれに加担するマスコミがいることを再認識させてくれました。怒りと恐怖を感じるとともに「民主主義」を隠れ蓑にした構造的な政治社会の欺瞞に腹が立つ反面、温かい血の通った「あとがき」によってそれらの沈鬱な気分から若干解放されました。

世界には自由と正義を求めて、香港、ミャンマー、アフガニスタンなど各地で支配権力に対し身を挺して闘っている勇敢な人々がいます。不正を働く支配権力とどう闘うか。日々のほほんと暮らしている私の選択すべき道は……。　川島金次（毎日新聞ＯＢ）

＜コラム＞　冤罪忘れるな！ ㊼

## 拘置所における暗と明

### 『バビロン女囚の記』

戦時キリスト教弾圧で一斉検挙（1942・6・26）された牧師・内田ヒデの獄中記（新教出版社刊『ホーリネス・バンドの軌跡　リバイバルとキリスト教弾圧』の中の１章）。検挙された北海道・小樽警察署から札幌大通拘置所へと移され、ここでポーリン・レーンと出会い、同囚として、また所内雑役で共に使役され、５か月余にわたって耐え合った日々が活写されている。

写真は、札幌大通拘置所のあった大通西14丁目の角。当時は司法関係の庁舎が隣り合っていた

暗は、飢餓と寒気。給食は生存限度を下回り、特に拘禁１年を超えたポーリンは骨と皮に痩せ，やつれ衰えていた。半面、同じ信仰を確かめ合った喜びは生き抜く強い力となり、意外なことに、看守や所長までもがそんな二人に共感、異例の物心支援を惜しまなかった様子がつぶさに描かれている。逆境を恨まず、常に誠実さを失わない精神性が敷衍したのか、そんな視点からも見落とせない稀有の記録となっている。

◆　◆　◆

「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）

**『引き裂かれた青春―戦争と国家秘密』花伝社刊**

第１部＝冤罪の真相　　第２部＝冤罪事実の条条検証
資料編＝判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付＝重要事項索引
申し込みは本会事務局までＦＡＸ・メールで（１面上部題字横に掲載）。送料税込み 2300 円。後払い。

【事務局から】　昨年 12 月 31 日付で発行した『検証良心の自由　レッドパージ 70 年』に続いて、今回発行した『松川事件と「諏訪メモ」』に対して、多くのみなさまから、制作費カンパをいただきました。おかげさまで、制作費を支払い、今後の活動継続への資金を少し確保することができました。みなさまのご厚意に心から感謝申し上げます。

安倍・菅政権に続く岸田政権は、憲法改悪の意図を隠していません。来る２０２２年、「憲法改悪→戦争への道」は、ますます高まると思います。警戒心を高めて、対処していきたいと思います。　（福島　清）